

【From Kobe 2014.9月】 **夏の終りと秋の始まりが入り混じる神戸で**

1. 災害に備えを自己確認 2. 朝日新聞 ひとえきがたり 三陸鉄道 島越駅

2014.9.1. from Kobe by Mutsu Nakanishi



神戸北野 異人館通り & 北野坂 過ぎゆく夏のひるさがり 2014.8.25.



実りの秋をひかえた西神戸伊川谷の里は頭を垂れた稲穂で一面まっ黄色に 2014.8.31. 西神戸 伊川谷で

収穫を控えた田圃に忙しく働く人たちが見える

ほかにも イチジク・ブドウ・なし そしてクリと西神戸秋の味覚の出荷が始まってゆく

厳しい気象変化が続く昨今、夏と秋がいきりまじる9月 秋近し

集中豪雨に台風の襲来もあり、かんかん照りの日もないまま夏も過ぎようとしています。

ゲリラ豪雨による未曾有の被害が出た広島の方々に思いをはせています

毎日蒸し暑い曇り空に 急変する集中豪雨 身近にも異常と感じられた8月の夏が過ぎてゆく

穏やかな いつもの9月の空に戻ってほしいもの

でも 空には赤トンボが舞い始め、田圃を黄色に染めて 稲穂が風に揺れています

西神戸では 秋の実りのトップ イチジクの実にブドウの出荷も始まり、秋近し

さわやかな秋へ 気持ちも切り替え 無理せず 元気に過ごしたいと思っています

集中豪雨に台風の襲来そして、ゲリラ豪雨 「今までに経験したことがない」の言葉の乱発に「またか・」と書いていたのですが、この夏ばかりは「これは本物や 他人ごとにしておれぬ」と。

半端でない夏台風の西神戸上陸 すごい風雨でした。

この頃の台風 時期もそうですが、なにか違ってきましたね。四国に上陸したというのに、雨も小雨が降ったりやんだり。風もほとんどなく、また マスコミの騒ぐ割には 進路がそれたのか・・・と思っていたら、一転 空が掻き曇り、すごい嵐。これは第二室戸以来の直撃風雨だと。風速 40m/s 忘れかけていた風雨でした。

また、5分おきに今後の予想も含め雨雲が移動変化してゆく様子が時々刻々PC 画像で見られ、

もう間もなく雨もやむぞ・・・と。すごい時代になりましたね。

幸い短時間で済んで、大きな被害なしでしたが、「これが長くつづいたら・・・」と思うすごい風雨。

つい 先日の広島の集中豪雨では 真っ暗な中で こんな時間がながくつづいたのだろうかなあ・・・と。

「一人よがりの経験だけでは どうにもならないなあ。。」との感じと 最近 必要以上に声高になってきた 「自分の身は自分で守る 判断力」の声。 年寄には過酷すぎる。でも 備えだけは やらないと・・・。

防災・避難経路と避難場所 自分なりにイメージ チェックもしたし、自分の所は大丈夫とと思っていましたが、同じ町内の知人がやってきて「東側の谷川が土砂崩れで埋まったら 水は直撃やぜ」という。

横の谷川は急傾斜で その下の深い谷へ流れ下るので、 上で池の決壊などで 大漁の水か出ても大丈夫と 思っていましたが、「これは想定外」

いたるところで 想定外が起こる。 そんな中での自己判断力が叫ばれる時代です

昔職場でよくやった「KY 危険予知」 やっぱり 予期せぬことを見出す大事な手法だと。

「一人KY もやらないかなあ・・・」と。

今「KY」なんて言っても通じないが、「安全の知恵」です

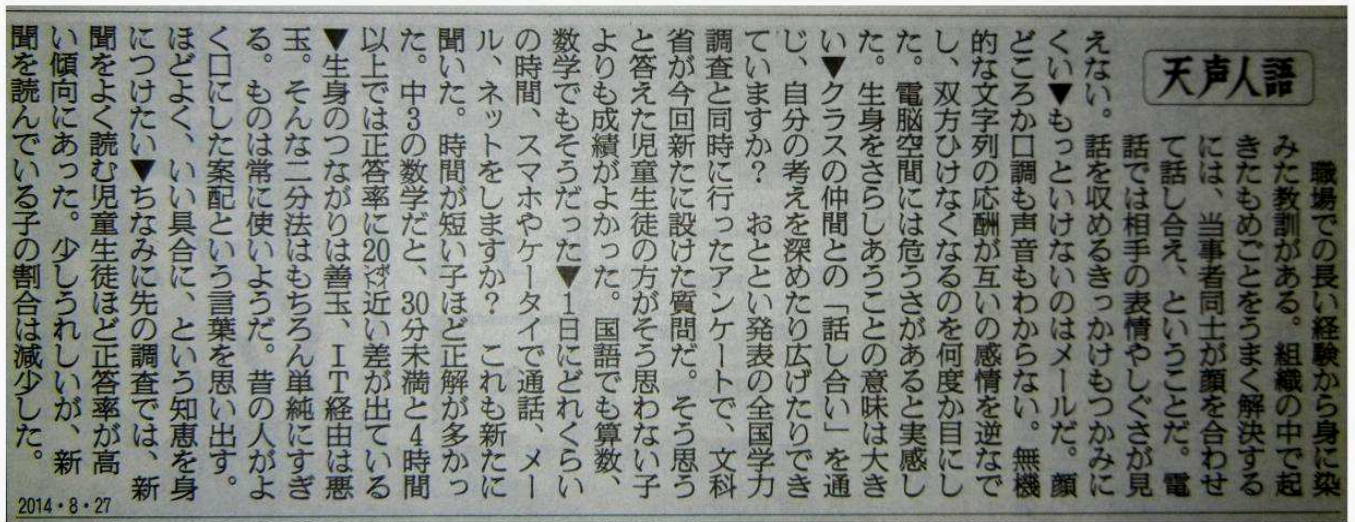
効率一辺倒の今 そんなもん 考える必要なしと一蹴されそうですが、

最近の「想定外」の多さの克服にはこんな 自分では 通常予想だにしない他人の知恵も借りねば・・・と。

また、8月27日の朝日新聞 天声人語氏は コミュニケーションの必要

ひとりよがりにつながりかねぬ電腦社会の危うさを指摘している。

こんな記事も参考になれば・・・と転記させていただきました。



色々 いつもと違った夏も終わり、秋がもうそこまで お互い 無理せず 元気で

また、広島そして東北の困難に立ち向かっておられる皆さんが 一日も早く 穏やかな生活が取り戻せますよう

2014.9.1. from Kobe Mutsu Nakanishi

毎度のぶつぶつ たまにはスカッとする話は・・・

それは みんなそれぞれ

左の一枚 先日 ナイター観戦で見かけた姿

大観衆を背に 独り立ち上がって

ビールを飲み干す

本当に 喉が鳴る

うらやましくて パチリです



◎ 朝日新聞 ひとえきがたり 三陸鉄道 島越駅 2014.8.26.掲載より

6月 三陸鉄道の島越駅を通過。 車窓より浜を含め、ちょっと印象が違うが、新しくきれいな駅舎を挟んで、高架の土盛り鐵路がトンネルからトンネルへ渡ってゆくのを見ました。

復興の象徴とずっと受け取っていたのですが、この島越駅周辺の津波被害のすごさと新しい駅・鐵路そして集落のことが、「ひとえきがたり 島越駅」として、新聞で紹介されていて、この島越駅と集落は津波で線路もろとも破壊され、現在復興した鐵路は新たに土盛りされた防潮堤の上に敷かれていますと知りました。



この島越駅前には バラバラになった人たちが盆踊ができる広場と加工センターが入るビルが建設され、村の人々が集う場所となって完成するという。一日も早く通常の生活がもどるようにと。。。。。

2014年(平成26年)8月26日 火曜日 享月 三 薬斤 島越 (夕刊)

しまのこし 島越駅 (岩手県、三陸鉄道北リアス線)

流された集落 再び集う場に

今年4月に全線復旧したばかりの三陸鉄道に乗りこえた鉄道ファンや家族連れが、新築の香りがする駅舎からホームに

出た。一列車が走る姿を見ただけで感動するなんて」と年配の女性。人影のない海岸に波が打ち寄せる。

7月27日、待望の新駅舎で窓口営業が始まった。青いドームが印象的だった前の駅舎は東日本大震災の津波で跡形もなくなり、線路は高架へと破壊された。三陸の駅の中でも最大級の被害だった。駅周辺にひしめくように立っていた100軒以上の家も駅舎とともに流された。住人は付近の仮設住宅などにちりぢりになり、高台にある早野さち子さん(62)の家だけが残された。「引っ越さなければ聞かれることもありすが、やっとならなから。でも、三鉄が戻ってこなかったら、どうだったかな」

1984年の三鉄開業以来、早野さんはこの家から駅を見てきた。海水浴客でにぎわう夏場、駅に備えられたシャワールの使い過ぎて家が断水して困ったこともあったという。「今思うと、幸せな悩みだったのね」

高台に移転した新しい駅舎はドームと屋根を銅でまき、外壁にはレンガ調のタイルを使った。「東京駅のイメージですかと聞かれますが、そんなに立派じゃない」。駅舎を管理する田野畑村役場の工藤光幸さん(51)が笑う。「でも、誰に見せても恥ずかしくない駅にしたかった。自分たちも自信が持てますから」

駅前でショベルカーが作業する音が響く。村は来年の夏を目標に、海産物加工場も入るコミュニティセンターや盆踊りもできる広場を造る予定だ。「それでこの駅は本当の完成です。津波ではなかった集落の人たちが、再び集まれる場所になれば」

(河瀬久美)

開。島越駅から徒歩10分の島越漁港から、1億1千万年前の地層や高さ200mの断崖を眺める約50分のコースを巡る。11月初旬まで、1460円。☎観光船発着所(0194・33・2113)。久慈駅や堀内駅は、昨年放送されたNHKの連続テレビ小説「あまちゃん」のロケ地。久慈駅すぐのあまちゃんハウスやもぐらんびあ・まちなか水族館には衣装や小道具、セットなどが展示されている。☎久慈広域観光協議会(53・5756)。

三陸鉄道北リアス線は、宮古駅(岩手県宮古市)と久慈駅(久慈市)を結ぶ71km。震災後休止していた北山崎断崖クルーズが今夏から運航を再開。島越駅から徒歩10分の島越漁港から、1億1千万年前の地層や高さ200mの断崖を眺める約50分のコースを巡る。11月初旬まで、1460円。☎観光船発着所(0194・33・2113)。久慈駅や堀内駅は、昨年放送されたNHKの連続テレビ小説「あまちゃん」のロケ地。久慈駅すぐのあまちゃんハウスやもぐらんびあ・まちなか水族館には衣装や小道具、セットなどが展示されている。☎久慈広域観光協議会(53・5756)。

防潮堤を兼ねた築堤の上を列車が走る。流された集落の跡に草草が茂っていた。上田順人撮影

ひとえきがたり

治線ぶらり

三陸鉄道北リアス線は、宮古駅(岩手県宮古市)と久慈駅(久慈市)を結ぶ71km。震災後休止していた北山崎断崖クルーズが今夏から運航を再開。島越駅から徒歩10分の島越漁港から、1億1千万年前の地層や高さ200mの断崖を眺める約50分のコースを巡る。11月初旬まで、1460円。☎観光船発着所(0194・33・2113)。久慈駅や堀内駅は、昨年放送されたNHKの連続テレビ小説「あまちゃん」のロケ地。久慈駅すぐのあまちゃんハウスやもぐらんびあ・まちなか水族館には衣装や小道具、セットなどが展示されている。☎久慈広域観光協議会(53・5756)。

興味津々

新駅舎から南に100mほど離れた旧駅舎跡地に、宮沢賢治の詩「発動機船 第二」の碑が残っている。海に対して直角に立っているため津波の被害をまぬかれた。同じく流されずに残った旧駅舎の階段の一部とともに、今後も保存される予定だ。

2014. 8. 26. 朝日新聞夕刊

なお、隣の普代では河口・谷が大堤防でふさがれていて、津波の被害は小さく抑えられたと訪ねた時に聞きました。判断一つで大きく変わる人の暮らし 本当に厳しい。 三陸鉄道が三陸沿岸に住む人たちの「絆」であると共に高く土盛りされた高架線路が防潮堤の役割を果たし、「命を守る鉄路」にもなってほしい。暮らしの復興へ 島越も普代もそれぞれ また 一歩 踏み出してほしいと。